

第3章 出火原因別火災状況

1 放火

- 昭和52年以降、令和元年を除き出火原因の第1位となっている。
- 夜間は全火災件数に占める放火火災の割合が高くなっている。

抽出条件：経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火*」、「921 放火の疑い*」

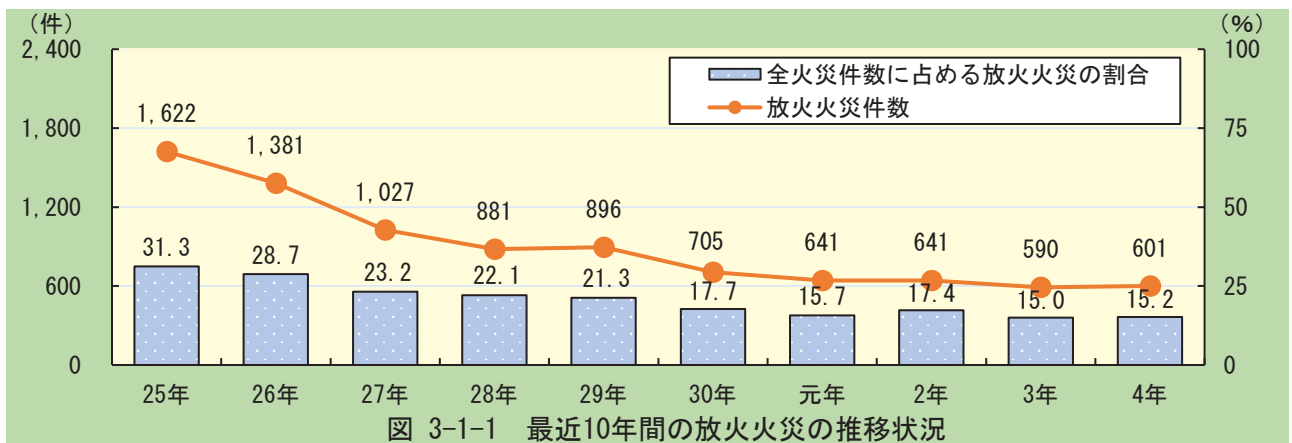
(1) 火災状況

ここでとりあげる「放火」とは、放火の疑い及び無意識放火を含んだ火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-1-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-1-1です。

表 3-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
25年	1,622	640	30	10	76	524	1	49	-	932	3,709	1,499	633,398	16	82
26年	1,381	510	15	10	77	408	1	62	-	808	3,697	1,585	529,165	19	69
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30年	705	276	7	3	46	220	-	17	-	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	-	373	1,937	532	525,967	26	67
2年	641	270	6	8	38	218	-	21	-	350	995	607	380,516	19	58
3年	590	213	6	2	33	172	1	12	-	364	1,290	270	260,091	17	27
4年	601	207	8	8	37	154	2	11	-	381	1,141	570	220,907	24	55



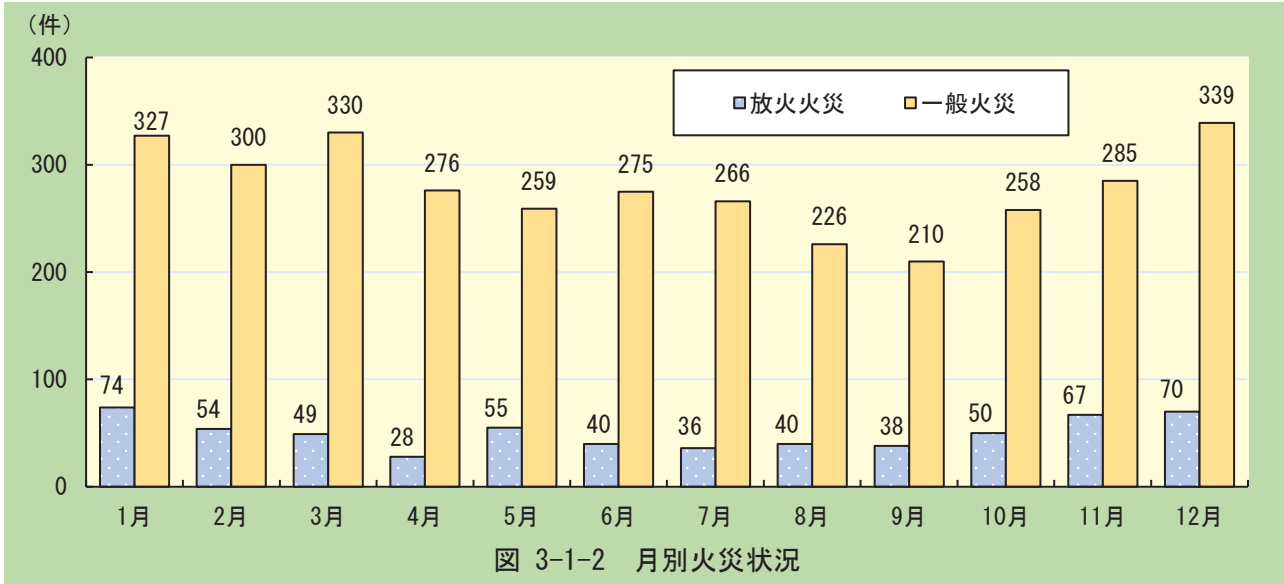
注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

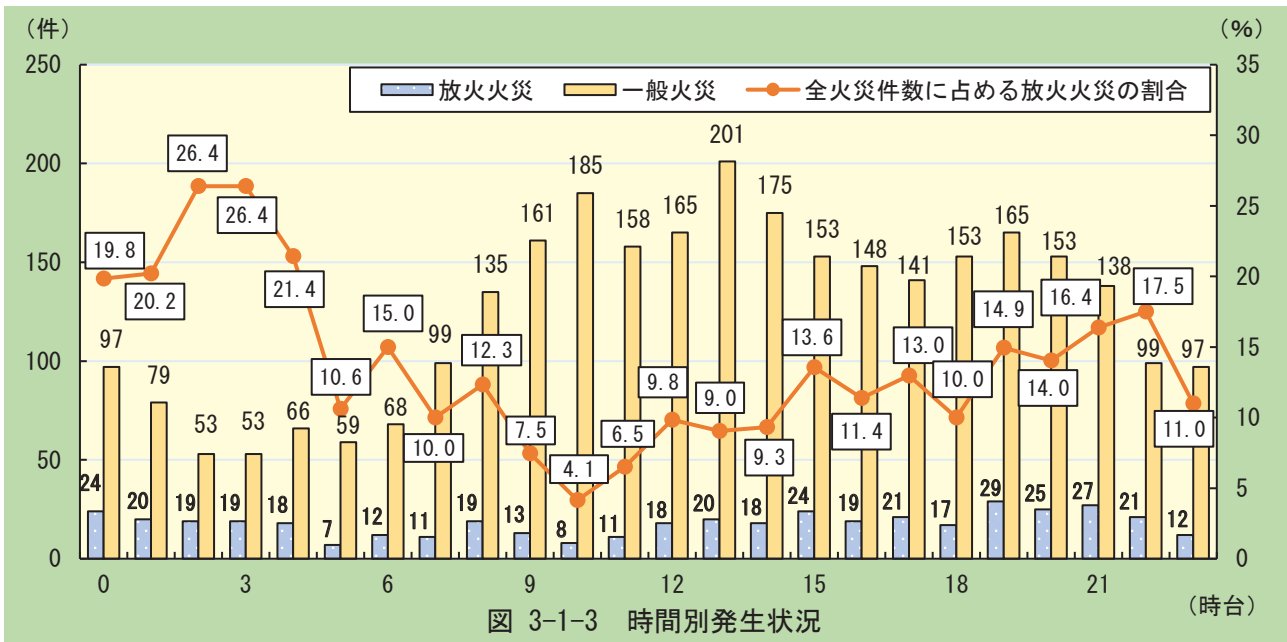
(7) 月別発生状況

放火と放火以外の火災（以下「一般火災」という。）の月別発生状況をみたものが図 3-1-2 です。



(4) 時間別発生状況

全火災件数のうち出火時間が不明の 519 件を除いた 3,433 件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図 3-1-3 です。



- 放火火災は月別では1月に74件発生し、最多。
- 一般火災は日中に多いのに対し、放火火災は夕方から深夜の時間帯に多く発生。

イ 放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表 3-1-2 です。

表 3-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放火場所 (出火箇所)		合計	紙・紙製品	ごみくず	枯草・落葉・立木・芝草	合成樹脂・合成樹脂製品	繊維類	くず類	木質類	引火物類	原木・廃材等	車両関係	床材	可燃性固体	建具	家具	不明	
合計		601	131	117	95	76	71	41	25	8	6	6	5	3	1	1	15	
建物関係 (主として建物箇所)	小計	193	70	21	5	23	45	6	3	3	-	-	4	-	1	1	11	
	共用部分	68	34	5	1	10	9	3	-	1	-	-	2	-	-	-	3	
	居住関係	68	22	6	-	5	26	1	-	1	-	-	-	-	1	-	6	
	倉庫・物置	12	1	7	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	車庫・駐車場	8	1	2	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ベランダ・屋上等	8	2	-	-	2	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	建物の外周部	8	2	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	施設管理・休憩室等	7	1	-	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	事務室等	4	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	店舗・客室関係	5	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	作業関係	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上記以外	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
建物関係以外 (主として建物以外の箇所)	小計	408	61	96	90	53	26	35	22	5	6	6	1	3	-	-	4	
	車両	7	-	-	-	-	-	-	1	1	-	4	-	-	-	-	1	
	その他	敷地内	139	22	31	21	34	8	11	5	1	2	1	1	2	-	-	-
		公園・墓地	109	22	28	34	4	5	10	3	2	1	-	-	-	-	-	-
		道路・地下通路	67	9	17	5	7	10	7	9	-	1	-	-	-	-	-	2
		河川敷	27	2	6	12	-	2	3	-	-	-	-	-	1	-	-	1
		屋外駐車場	12	1	1	4	3	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
		屋外ごみ捨場	10	2	7	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		工作物等	10	3	3	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		田畑	9	-	-	7	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
上記以外	18	-	3	7	3	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-		

- 放火された場所は、建物関係では共用部分と居住関係は同件数。
- 着火物別でみると、「ごみくず」、「紙・紙製品」で4割以上（41.3%）を占める。

ウ 用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 187 件の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3 火元建物用途別発生状況

火元の用途 (合計 187 件)														
居住系			事業系								居住・事業系以外			
共同住宅等	住宅	複合用途の住宅部分	事務所	百貨店・物販棟	駐車場	病院	ホテル	倉庫	飲食	遊技場	共用部分	付属建物等	空家	建工事中の物の
81	36	5	23	4	3	3	2	1	1	1	17	8	1	1

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて上位 10 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4 地域別放火火災発生状況

特別区	件数	放火による出火率	受託地区	件数	放火による出火率
江戸川区	40	0.6	八王子市	34	0.6
足立区	30	0.4	町田市	29	0.7
大田区	30	0.4	あきる野市	16	2.0
葛飾区	28	0.6	調布市	11	0.5
練馬区	26	0.3	東村山市	10	0.7
新宿区	26	0.7	東大和市	10	1.3
台東区	21	1.0	立川市	10	0.6
世田谷区	20	0.2	多摩市	9	0.6
板橋区	19	0.3	東久留米市	9	0.8
墨田区	17	0.6	国立市	9	1.1

(4) 連続放火火災の発生状況

表 3-1-5 主な連続放火火災の発生状況

月	管内	主な出火場所	焼損物	件数
3月	練馬	(練馬区) 桜台	枯草等	5
3月	調布	(調布市) 深大寺南町	新聞紙・ちらし等	5
8月	本所	(墨田区) 横川	立木等	6
10月	本田	(葛飾区) 細田	枯草等	6
11月	秋川	(あきる野市) 二宮	枯草等	7

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

- 放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最多。
- 特別区では江戸川区、受託地区では八王子市で放火火災が多く発生。

2 たばこ

- 火災件数は569件で、前年に比べ14件（2.4%）減少。
- 建物から出火した火災の約8割を居住関係用途が占める。

抽出条件：発火源分類コード 「42101 たばこ」
 経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

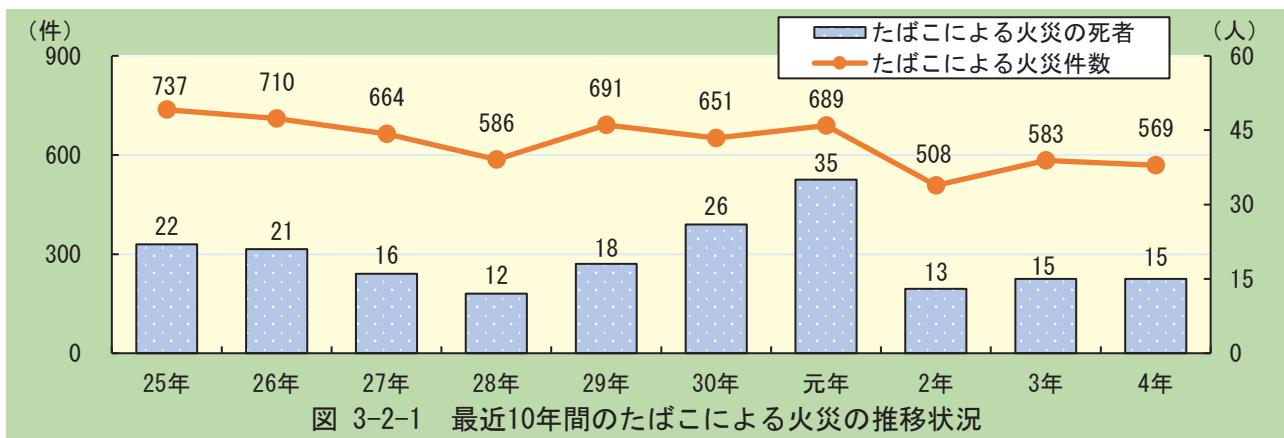
(1) 火災状況

ここでとりあげるたばこによる火災とは、発火源がたばこで、放火及び火遊びによる火災を除いたものです。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-2-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-2-1です

表 3-2-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
25年	737	432	3	18	128	283	-	11	-	294	2,664	1,651	513,123	22	86
26年	710	415	7	16	111	281	-	20	-	275	2,105	1,158	485,068	21	98
27年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30年	651	366	4	15	104	243	-	13	-	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	-	295	1,750	797	541,339	35	77
2年	508	291	5	10	75	201	-	10	-	207	1,508	717	271,376	13	65
3年	583	312	7	7	81	217	-	12	-	259	1,901	712	424,642	15	94
4年	569	324	11	11	94	208	-	7	-	238	2,474	1,000	664,874	15	74

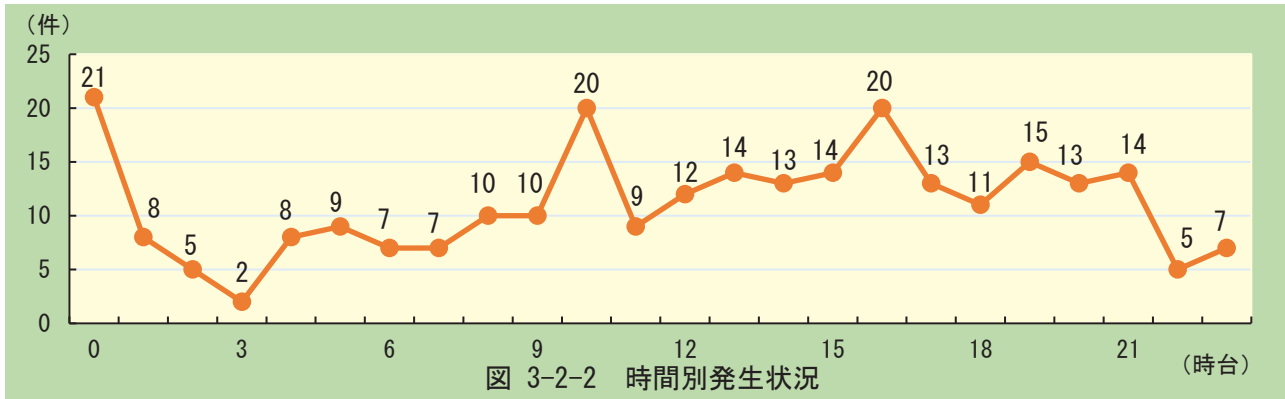


- たばこによる火災件数は、前年に比べ14件（2.4%）減少しており、最近10年間は概ね横ばいで推移。
- たばこによる火災の死者は、15人で昨年と同人数。

(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 569 件のうち、建物から出火した火災は 292 件で、このうち出火時分が不明の 25 件を除いた 267 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。



イ 主な建物用途の出火箇所

建物から出火した火災 292 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合計	建 物 用 途									
		居 住 系	小 計	飲 食 店	事 務 所 等	事 業 所	ホ テ ル	停 車 場	作 業 場	そ の 他	居 住 ・ 事 業 系 以 外
合計	292	229	39	12	6	6	4	2	2	7	24
居室	119	118	1	-	-	-	-	-	-	1	-
ベランダ	70	67	2	-	2	-	-	-	-	-	1
キッチン等	25	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建物の部分	16	9	5	1	-	2	-	-	-	2	2
便所・浴室等	14	5	4	1	-	3	-	-	-	-	5
廊下・玄関等	12	5	-	-	-	-	-	-	-	-	7
作業関係	11	-	10	6	1	-	-	-	2	1	1
店舗・客室等	9	-	9	3	-	-	4	-	-	2	-
倉庫・物置・車庫等	7	-	1	-	-	-	-	1	-	-	6
施設管理・休憩室等	5	-	3	1	1	-	-	-	-	1	2
事務室等	3	-	3	-	2	1	-	-	-	-	-
機械室・設備関係	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ 経過別出火箇所

建物から出火した火災で経過別に出火箇所をみたものが表 3-2-3 です。

表 3-2-3 経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所												
		居室	ベランダ	キッチン等	建物の部分	便所・浴室等	廊下・玄関等	作業関係	店舗・客室等	倉庫・物置・車庫等	施設管理・休憩室等	事務室等	機械室・設備関係	工事中建物
合計	292	119	70	25	15	14	12	11	9	7	5	3	1	1
不適当な処に捨てる	187	43	59	19	13	13	12	10	3	6	4	3	1	1
火源が落下する	98	71	11	5	2	1	-	1	6	1	-	-	-	-
火源が接触する	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
接炎する	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
火源を収納する	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物から出火した火災 292 件のうち、喫煙時の状況が不明の 54 件を除いた 238 件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表 3-2-4 です。

表 3-2-4 経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況													
		休憩中	外出時	就寝時	出勤時	飲酒中	起床時	作業中・執務中	帰宅準備中	遊技中	観覧中・鑑賞中	食事	家事従事中	会議中・談話中	その他
合計	238	62	47	30	12	12	10	10	4	3	2	2	2	2	40
不適当な処に捨てる	152	40	34	12	9	4	7	9	3	3	-	2	1	2	26
火源が落下する	80	18	12	18	3	8	3	1	1	-	2	-	1	-	13
火源が接触する	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
接炎する	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
火源を収納する	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

- 経過別出火箇所の状況では「不適当な処に捨てる」が 187 件（64.0%）と、全体の 6 割以上を占め、その多くは居室及びベランダで発生。
- 喫煙時の状況をみると、「休憩中」が 62 件（26.1%）で最も多く、2 割以上を占める。

オ 出火に至った時間

建物から出火した火災 292 件のうち、出火に至った時間が不明の 79 件を除いた 213 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合計	着火物							
		ごみくず	繊維類	紙・紙製品	くず類	床材	家具	合成樹脂製品・合成樹脂	不明・その他
合計	213	121	46	21	9	4	4	3	5
1 時間未満	149	89	28	17	7	2	1	3	2
1 時間以上 2 時間未満	35	17	11	2	-	1	1	-	3
2 時間以上 3 時間未満	12	7	2	-	1	1	1	-	-
3 時間以上 4 時間未満	6	2	1	2	1	-	-	-	-
4 時間以上 5 時間未満	6	4	2	-	-	-	-	-	-
5 時間以上 6 時間未満	3	1	2	-	-	-	-	-	-
6 時間以上	2	1	-	-	-	-	1	-	-

○ 1 時間未満が 149 件（70.0%）で 7 割を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が最多。

カ 行為者の状況

(7) 行為者の男女別・年齢

たばこによる火災 569 件のうち、行為者が不明の 288 件を除いた 281 件について行為者を男女別で推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 292 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 247 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。

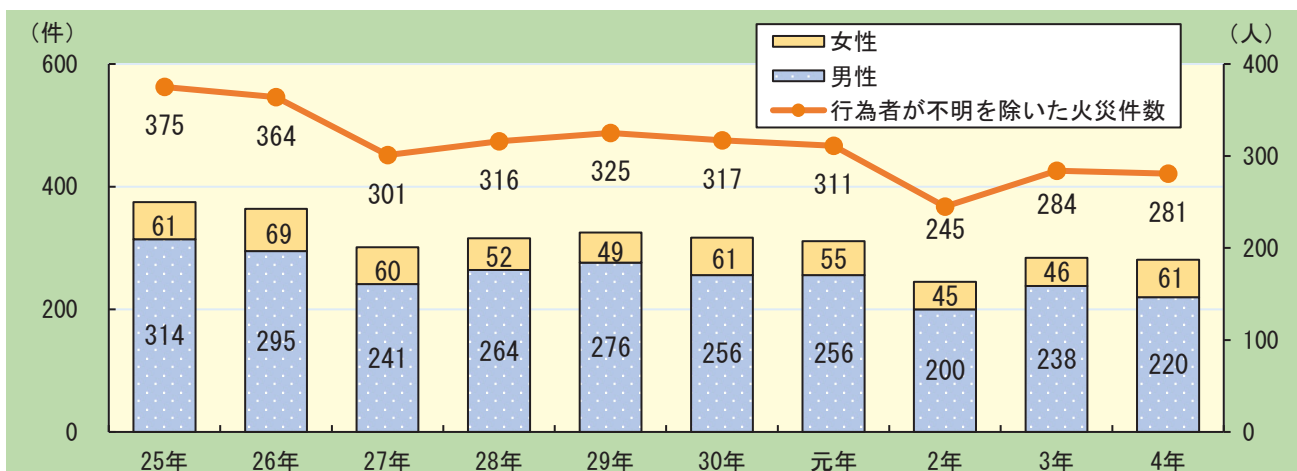
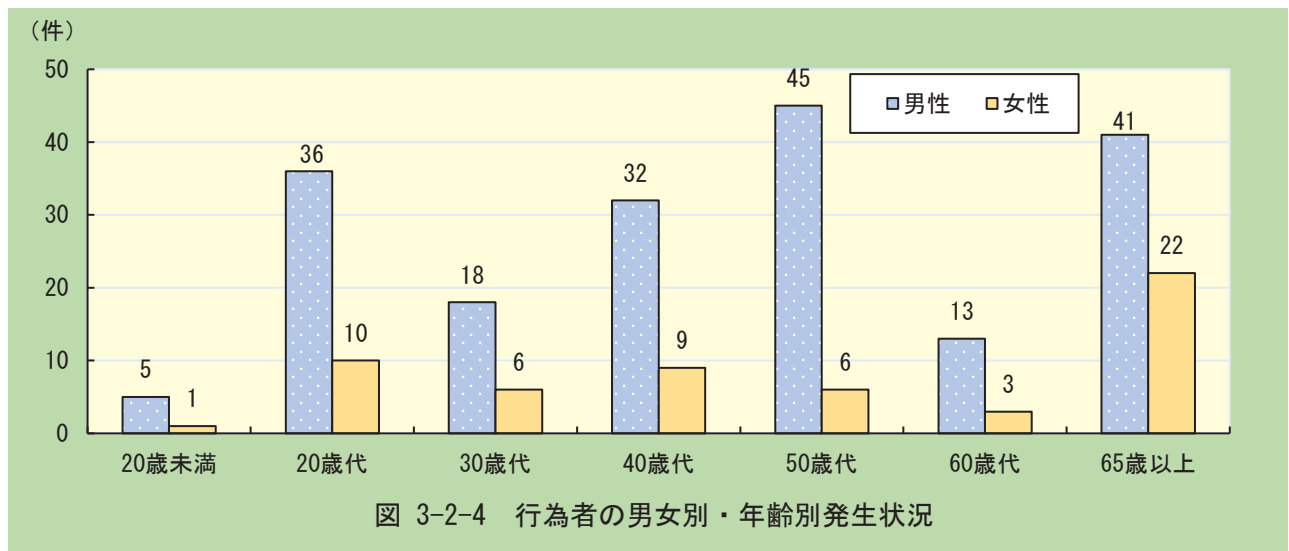


図 3-2-3 たばこによる火災件数の男女別の推移



- 行為者の男女別では男性が 220 件（78.3%）で 8 割近くを占める。
- 65 歳以上が 63 件（25.5%）で最多。

(イ) 寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

寝たばこの年齢区分別行為時の状況をみたものが表 3-2-6 です。

表 3-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行 為 時 の 状 態				死 者	負 傷 者
		正 常	飲 酒	薬 物 服 用	不 明		
合 計	7	4	1	1	1	-	2
20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	1	-	1	-	-	-	1
50歳代	4	3	-	1	-	-	1
60歳代	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上	2	1	-	-	1	-	-

- 寝たばこによる火災は、年齢区分別では「50歳代」が 4 件（57.1%）で 6 割近くを占める。

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 277 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7 出火箇所別の着火物（建物以外）

出火箇所		合計	着火物								
			ごみくず	立木・落葉・芝草	枯草・落葉	木質物	紙・紙製品	木切れ・廃材	樹脂製・合成	合成樹脂製・合成	くず類
合計		277	113	67	25	20	12	12	12	9	7
道路・公園等	小計	119	46	45	12	6	1	2	1	3	3
	道路（側溝を含む）	89	43	27	8	5	1	-	1	3	1
	公園	15	3	7	3	1	-	-	-	1	-
	河川敷	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	軌道敷	3	-	2	-	-	-	1	-	-	-
	空地	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	高速道路	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	畑	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	その他	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-
固有地（物）	小計	137	60	21	10	11	9	9	11	4	2
	敷地内	108	46	12	8	10	9	8	10	3	2
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場	20	6	9	2	1	-	-	1	1	-
	屋外駐車場	9	8	-	-	-	-	1	-	-	-
車両	小計	7	2	-	-	3	1	-	-	1	-
	荷台	5	1	-	-	2	1	-	-	1	-
	運転席	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	助手席	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
建物の部分	小計	10	5	1	1	-	1	-	-	-	2
	建物の外周部	4	1	-	-	-	1	-	-	-	2
	屋上	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-
	ベランダ	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
工作物	小計	4	-	-	2	-	-	1	-	-	1
	橋	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	その他	3	-	-	1	-	-	1	-	-	1

- 建物以外から出火した火災は「固有地（物）」が 137 件（49.5%）で 5 割近くを占める。
- 着火物は「ごみくず」が 113 件（40.8%）で最も多く 4 割以上を占める。

3 火遊び

- 火災件数は20件で、火災件数は前年より6件減少。
- 建物火災は12件で全体の6割を占める。

抽出条件：経過分類コード 「931 火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に火出したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

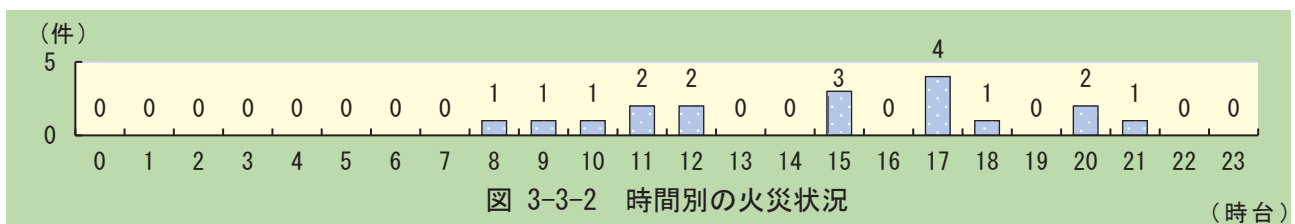
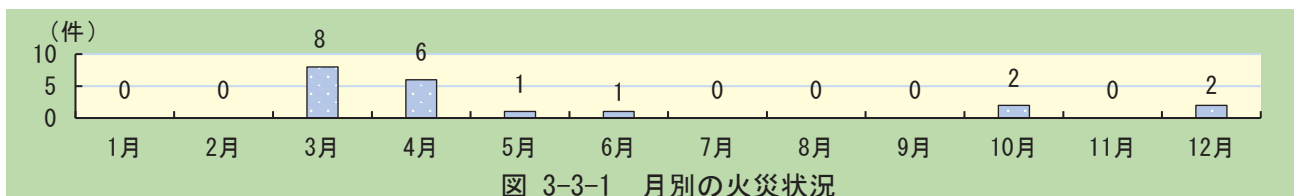
最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-3-1です。

表 3-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災の種類									焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
	合計	建物					車両	林野	その他					
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
25年	74	25	-	2	4	19	-	-	49	205	89	55,238	-	10
26年	76	20	-	-	2	18	3	-	53	34	9	7,413	-	1
27年	72	26	-	2	5	19	-	2	44	120	18	30,700	-	4
28年	33	14	-	-	2	12	-	-	19	20	12	3,048	-	1
29年	49	19	-	-	5	14	-	-	30	15	5	2,707	-	3
30年	31	12	-	-	1	11	-	-	19	10	-	1,593	-	2
元年	21	11	-	-	3	8	-	-	10	16	3	3,610	-	-
2年	20	11	-	-	3	8	-	-	9	64	45	10,032	-	1
3年	26	6	-	-	-	6	-	-	20	-	-	42	-	2
4年	20	12	-	-	2	10	-	1	7	-	54	2,925	-	6

イ 月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図3-3-1、時間別の火災状況（出火時分不明2件除く）についてみたものが図3-3-2です。



(時台)

- 月別では、3月が8件（40.0%）で最も多く、次いで4月が6件（30.0%）発生。
- 時間別では、18件（出火時間不明2件除く）のうち17時台が4件（22.2%）と最も多く、15時台から21時台にかけて火災が多発。

(2) 出火箇所

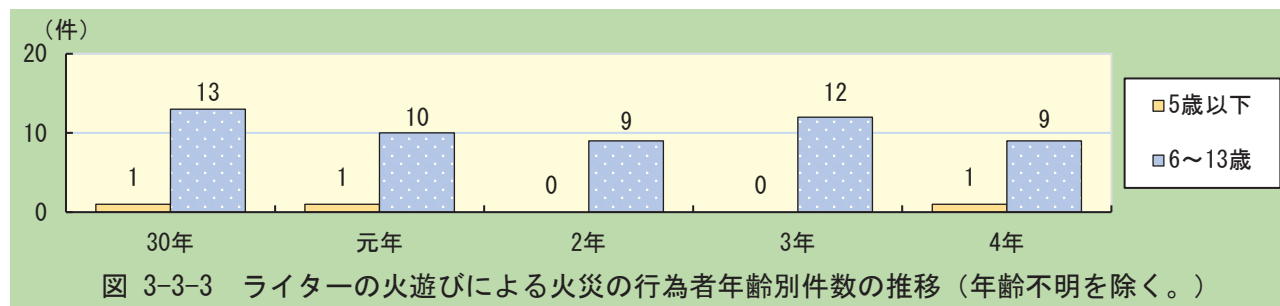
発火源別に出火箇所をみたものが表 3-3-2 です。

表 3-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所							
		建物関係 (主として建物の箇所)				建物関係以外 (主として建物以外の箇所)			
		居室	キッチン	駐車場内	その他	敷地内	公園	駐車場外	(森林)
合計	20	4	1	1	5	5	2	1	1
ライター	10	4	-	1	1	2	1	1	-
マッチ	7	-	-	-	3	3	-	-	1
ガステーブル	1	-	1	-	-	-	-	-	-
不明	2	-	-	-	1	-	1	-	-

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近5年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図 3-3-3 です。



- 発火源別では、ライターが10件（50.0%）で最多。
- ライターの火遊びは減少傾向にあり、前年より2件減少。

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成23年9月27日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについてはPSCマークの表示が義務付けられています。

4 ライター

- 火災件数は前年より2件増加し、損害額は前年の2倍以上を計上している。
- ライターによる火災の約8割を建物火災が占める。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301 ライター」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-4-1です。

表 3-4-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	合計	火災の種類									損害状況				
		建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
25年	47	27	-	3	1	23	-	16	-	4	178	87	32,234	1	20
26年	46	32	1	1	4	26	1	9	-	4	673	68	178,153	2	34
27年	33	18	-	-	2	16	-	11	-	4	77	20	23,320	1	11
28年	40	27	-	1	2	24	-	11	-	2	60	7	19,017	-	32
29年	28	21	-	1	2	18	-	5	-	2	34	21	5,968	-	15
30年	25	19	-	-	2	17	-	4	-	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	-	1	3	15	-	7	-	3	91	24	59,481	-	14
2年	22	18	-	-	3	15	-	4	-	-	26	21	13,419	-	13
3年	33	21	1	-	3	17	-	9	1	2	202	57	11,873	-	18
4年	35	27	-	1	3	23	-	6	-	2	124	92	27,247	-	16

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図3-4-1です。

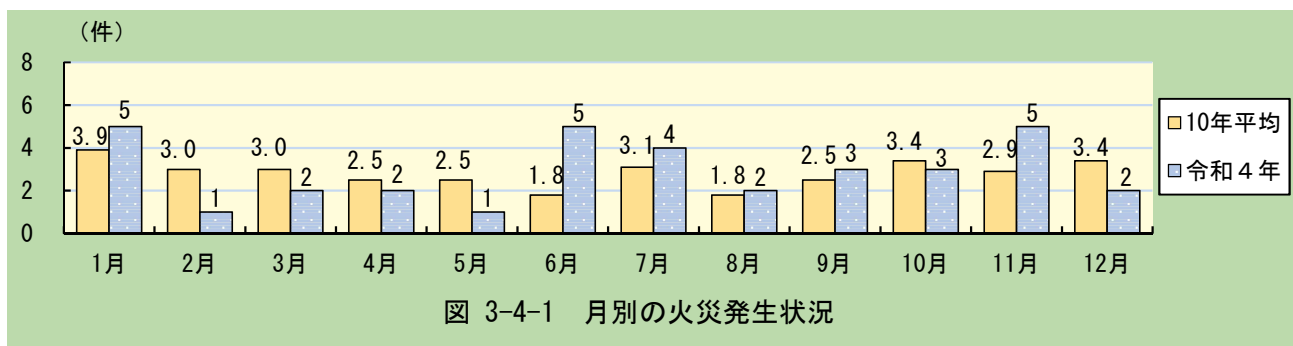


図 3-4-1 月別の火災発生状況

- 1月、6月及び11月が各5件（14.3%）で最も多く発生。
- 最近10年間の月別平均件数では、1月が3.9件と最多。

(2) 経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分で見たものが表3-4-2です。

表3-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別				
			引火する	誤ってスイッチが入る（入れる）	火源が接触する	本来の用途以外の用に用いる	接炎する
合計		35	11	10	6	4	4
建物	小計	27	10	4	6	4	3
	建物（自宅）	15	5	1	6	-	3
	建物（事業用）	7	4	1	-	2	-
	建物（その他）	3	1	2	-	-	-
	建物（自宅以外）	2	-	-	-	2	-
建物以外	車両からの出火	6	-	6	-	-	-
	屋外で出火	2	1	-	-	-	1

- ライターによる火災は建物で27件（77.1%）発生。そのうち、自宅から出火しているのは15件（55.6%）で5割以上を占める。
- 経過別では、「引火する」が11件（31.4%）で3割以上を占める。次いで「誤ってスイッチが入る（入れる）」が10件（28.6%）発生。

5 ロウソク

- 火災件数が 36 件で前年と比べて 4 件減少。
- 死者が 4 名発生しており、最近 10 年でみると平成 30 年と同数で最多。

抽出条件：①発火源分類コード 「41701 ローソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、「41705 走馬灯」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図 3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図 3-5-2 です。

表 3-5-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					車 両	船 舶	林 野	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
25 年	52	52	3	4	12	33	-	-	-	-	577	186	117,857	2	30
26 年	56	56	1	1	15	39	-	-	-	-	210	214	44,925	-	21
27 年	40	40	-	1	12	27	-	-	-	-	137	128	57,794	-	18
28 年	48	47	2	3	11	31	-	-	-	1	473	180	85,770	1	24
29 年	46	46	2	4	10	30	-	-	-	-	422	160	64,061	-	25
30 年	41	40	2	3	11	24	-	-	-	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	-	-	-	1	611	149	58,296	2	17
2 年	31	31	1	2	10	18	-	-	-	-	406	179	89,762	-	18
3 年	40	38	-	4	8	26	-	-	-	2	304	142	75,158	1	28
4 年	36	35	1	4	5	25	-	-	-	1	465	270	124,323	4	17

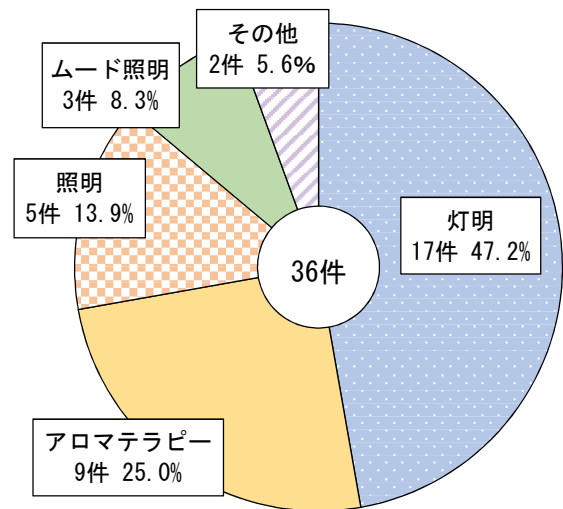
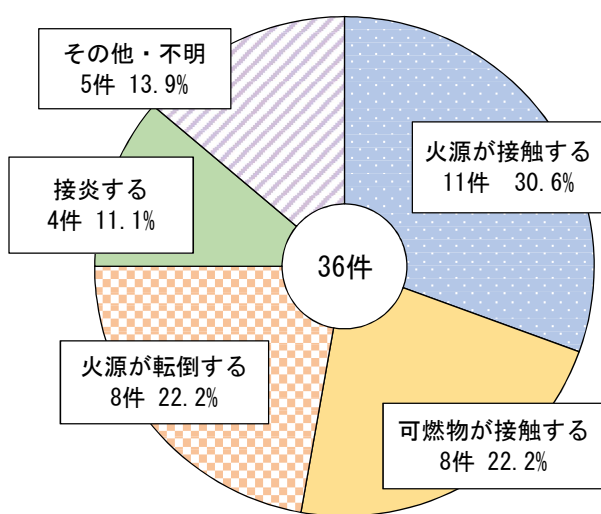


図 3-5-1 ロウソクによる火災の経過

図 3-5-2 ロウソクの使用目的

- 火災の経過をみると、ロウソクが可燃物に接触して出火したものが 11 件と最多。
- ロウソクの使用目的は、灯明が 17 件で 5 割近く占める。

6 電気設備機器

- 全火災件数に占める電気設備機器火災の割合が、最近10年で最も高い37.1%となっている。
- 政令用途対象物の火災の割合が、増加傾向で推移している。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1) 火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-6-1です。

表3-6-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	火電気設備機器火災件数	全火災に対する割合(%)	火災の種類								損害状況					
				建物					航空機	車両	船舶	その他	焼損床面積(m ²)	焼損表面積(m ²)	損害額(千円)	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
25年	5,190	1,111	21.4	984	20	28	129	807	-	-	-	127	7,221	3,570	2,052,525	21	155
26年	4,804	1,020	21.2	901	27	23	119	732	-	1	2	116	6,502	1,971	1,354,817	23	189
27年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	-	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	-	-	-	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	-	-	-	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159
2年	3,693	1,163	31.5	1,057	13	15	102	927	-	-	-	106	2,767	1,646	917,825	14	159
3年	3,935	1,399	35.6	1,274	16	31	111	1,116	-	-	-	125	4,878	2,760	1,576,641	18	182
4年	3,952	1,467	37.1	1,298	28	17	116	1,137	-	-	-	169	7,415	1,764	1,614,097	19	206

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和4年中の電気設備機器火災件数は最近10年間で最多。
- 火災種別をみると、建物火災件数が1,298件で、前年と比べて24件増加。
- 電気設備機器火災の死者は最近10年間で3番目に多く、負傷者は最多。

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その1）

発火源	合計	経過																									
		電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	過熱する	過剰の電流(含電圧)が流れる	地絡する	可燃物が接触する	考え違いにより使用を誤る	絶縁劣化により発熱する	半断線により発熱する	放置する・忘れる	放射を受けて発火する	誤ってスイッチが入る(入れる)	スパークする	構造が不完全である	火花が飛ぶ	火源が接触する	機械が故障を起こす	誤結線する	可燃物を置く	本来の用途以外の用に用いる	スパークにより引火する	その他	不明		
合計	1,467	413	236	127	90	76	76	71	54	38	34	32	24	23	18	18	16	13	13	10	7	6	5	29	38		
電熱器	小計	253	32	19	13	19	3	-	52	8	2	13	11	4	20	3	3	10	9	4	-	5	5	1	13	4	
	電気ストーブ	59	2	-	-	-	-	-	40	1	-	1	-	4	3	1	-	-	1	-	-	2	1	-	2	1	
	電気トースター	26	3	2	-	12	-	-	-	4	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	ヘアードライヤー	21	5	3	1	1	-	-	-	-	-	5	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-
	電気こんろ	18	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	5	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	電気クッキングヒーター	16	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	3	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
	投込湯沸器	12	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気溶接器	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	1	-	
	温風機	7	2	2	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オイルヒーター	5	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電気ポット	5	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
便所用温水温風機(洗浄含む)	4	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サウナヒーター	4	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の	65	16	8	3	5	2	-	4	2	-	4	-	-	3	1	-	2	-	4	-	2	2	-	5	2		
電気機器	小計	623	246	33	36	71	27	7	19	35	21	7	21	20	3	9	15	6	4	8	3	2	1	4	11	14	
	充電式電池	103	85	-	2	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	電子レンジ	84	3	2	-	52	-	-	19	1	-	1	-	1	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	
	電磁調理器	36	1	1	-	7	-	-	-	3	-	20	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	
	ダウンライト	30	-	3	1	5	2	1	1	1	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	直流電源装置(ACアダプタ含む)	29	23	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	LED	24	10	-	9	-	1	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	蛍光灯	21	10	-	2	-	-	-	-	7	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コンピュータ(本体)	21	16	-	2	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	冷暖房機	20	5	6	5	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	カーボンヒーター	19	1	-	-	-	-	-	10	-	-	1	-	3	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	
	掃除機	16	7	1	1	-	3	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	携帯電話機	15	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	冷蔵ショーケース	14	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
	食器洗器	10	2	3	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	
	シーリングライト	9	-	-	-	2	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	電気美容器具	9	4	2	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	冷凍庫	8	4	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気冷蔵庫	6	3	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ジュース	6	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
扇風機	6	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
コンピュータ(モニター)	6	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
研磨機(グラインダ含む)	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2		
レーザー加工機	5	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
放送用設備機器	5	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ハロゲンヒーター(暖房器具)	4	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
リチウム電池	4	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
ブラケット	4	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
その他の電気機器	103	40	8	8	-	5	2	5	5	4	1	-	1	1	1	-	3	2	2	2	-	1	3	6	3		

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その2）

発火源	合計	経過																							
		電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	過熱する	過多の電流（含電圧）が流れる	地絡する	可燃物が接触する	考え違いにより使用を誤る	絶縁劣化により発熱する	半断線により発熱する	放置する・忘れる	放射を受けて発火する	誤ってスイッチが入る（入れる）	スパークする	構造が不完全である	火花が飛ぶ	火源が接触する	機械が故障を起こす	誤結線する	可燃物を置く	本来の用途以外の用に用いる	スパークにより引火する	その他	不明
電気装置	小計	86	18	20	8	-	11	4	-	4	15	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	4
	制御盤	32	3	8	6	-	9	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	分電盤	19	3	11	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	コンデンサ（低圧）*	13	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	トランス	6	3	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	三相モーター	6	4	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	充電器 その他の電気装置	3 7	3 2	- -	- -	- -	- 2	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 2
配線	小計	243	85	49	13	-	9	58	-	4	-	11	-	-	-	4	-	-	-	6	-	-	-	-	4
	コード	67	39	4	1	-	3	5	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
	屋内線*	47	23	10	2	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	配電線（高圧）	34	2	-	-	-	-	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	配線用遮断器	16	1	10	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋外線	12	10	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	漏電遮断器	10	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	継電器	7	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁接触器	5	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	配電線（低圧）	5	1	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	タンブラースイッチ	4	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	街頭スイッチ	4	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁開閉器	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	柱上低圧開閉器	4	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	タイムスイッチ	3	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
引込線（低圧）	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の配線等	18	3	3	1	-	4	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
配線器具等	小計	257	32	115	57	-	26	7	-	3	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
	コンセント	89	4	56	6	-	7	3	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	差込みプラグ	81	11	29	25	-	11	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	テーブルタップ	30	4	10	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	コードコネクタ*	17	8	3	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マルチタップ*	15	-	8	3	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電灯付家具、コンセント付家具	7	2	1	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジョイントボックス	5	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
積算電力計	5	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の配線器具等	8	1	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の電気関係	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 3-6-2 です。

ア 発火源の分類別火災状況

(7) 電熱器

- 電熱器関係の火災は 253 件（17.2%）で、前年と比べて 11 件増加。
- 電熱器の中で火災件数が最も多いのは電気ストーブで、59 件（23.3%）発生。
- 電気ストーブの経過をみると、布団類などの可燃物が接触する火災が 40 件（67.8%）。

(イ) 電気機器

- 電気機器関係の火災件数は 623 件（42.5%）で、前年と比べて 23 件増加。
- 電気機器関係火災の上位 3 位をみると、充電式電池が 103 件（16.5%）で最も多く、次いで電子レンジが 84 件（13.5%）、電磁調理器が 36 件（5.8%）となっている。
- 充電式電池の経過をみると、「電線が短絡する」が 85 件（82.5%）と最多。

(ウ) 電気装置

- 電気装置関係の火災件数は 86 件（5.9%）で、前年と比べて 12 件増加。
- 電気装置関係の中で最も多いのは、制御盤の 32 件（37.2%）で、次いで分電盤の 19 件（22.1%）となっている。
- 制御盤の経過をみると、「過多の電流（含電圧）が流れる」が 9 件（28.1%）で 3 割近くを占める。

(エ) 配線等・配線器具等

- 配線等・配線器具等の火災は合わせて 500 件（34.1%）で、前年と比べて 27 件増加。
- 配線器具等の火災は 257 件発生し、このうちコンセントが 89 件（34.6%）、次いで差込みプラグが 81 件（31.5%）発生。経過の内訳をみると、いずれも「金属の接触部が過熱する」が最多。

イ 電気設備機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 623 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3 主な電気機器の出火部位

発火源	合計	充電部	庫内	差込みプラグ	基板	電源コード	ヒーター	器具内配線	安定器	コンデンサ	その他の電気器具部分	その他・不明
合計	623	140	76	71	50	46	30	19	19	14	87	71
充電式電池	103	92	-	1	2	1	-	-	-	-	3	4
電子レンジ	84	-	76	2	-	2	-	-	-	1	1	2
電磁調理器	36	-	-	1	1	-	3	-	-	2	27	2
ダウンライト	30	-	-	-	2	1	-	1	-	-	12	14
直流電源装置（ACアダプタ含む）	29	-	-	22	2	1	-	-	-	-	2	2
LED	24	6	-	1	6	4	-	1	-	-	4	2
蛍光灯	21	-	-	-	-	-	-	1	14	3	3	-
コンピュータ（本体）	21	8	-	7	2	2	-	-	-	1	1	-
冷暖房機	20	-	-	5	5	1	-	3	-	1	3	2
カーボンヒータ	19	-	-	-	-	2	16	-	-	-	1	-
掃除機	16	7	-	4	4	-	-	-	-	-	1	-
携帯電話機	15	13	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
冷蔵ショーケース	14	-	-	6	-	2	1	-	-	-	-	5
食器洗器	10	-	-	5	-	-	2	1	-	-	1	1
シーリングライト	9	-	-	-	5	-	-	-	1	1	-	2
電気美容器具	9	2	-	1	-	3	-	1	-	-	1	1
冷凍庫	8	-	-	2	1	1	1	2	-	-	-	1
その他の電気機器	155	12	-	14	20	25	7	9	4	5	26	33

注 その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示す。

(7) 充電部

- 電気機器の充電部から出火した火災は、140 件（22.5%）で、前年と比べて 6 件増加。
- 発火源別にみると、充電式電池の充電部からの火災が 92 件（65.7%）と最多。

(4) 庫内部

- 庫内部から出火した火災は 76 件（12.2%）発生し、すべて電子レンジから発生。

(ウ) 差込みプラグ・電源コード

- 差込みプラグから出火した火災は、71件（11.4%）発生。
- 電源コードから出火した火災は、46件（7.4%）発生。

(イ) 基板部

- 基板部から出火した火災は50件（8.0%）発生し、LED 6件、シーリングライト 5件及びダウンライト 2件の照明関連上位 3位で 13件（26.0%）発生。

(オ) その他の電気器具部分

- その他の電気器具部分から出火した火災は、87件（14.0%）発生。
- 発火源をみると、電磁調理器が 27件（31.0%）と最も多く発生し、次いでダウンライトが 12件（13.8%）となっている。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器の火災を用途別にみたものが表 3-6-4 です。

表 3-6-4 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	前年比	
合計	1,109	1,111	1,020	1,047	1,052	1,152	1,283	1,163	1,399	1,467	68	
用 建 物 途	政令用途対象物	466	511	453	458	488	537	660	565	652	690	38
	(%)	46.0	44.4	43.7	46.4	46.6	45.6	51.4	48.6	46.6	47.0	0.4
	住宅・共同住宅等	466	447	444	426	479	487	474	487	612	604	▼8
	(%)	41.9	43.8	42.4	40.5	41.6	40.4	36.9	41.9	43.7	41.2	▼2.5
	その他（建物以外）	134	120	145	138	136	169	149	111	135	173	38
(%)	12.1	11.8	13.8	13.1	11.8	14.0	11.6	9.5	9.6	11.8	2.2	

- 政令用途対象物をみると、令和 4 年は 690 件（47.0%）になり、電気設備機器火災全体の 5 割近くを占める。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-1 です。

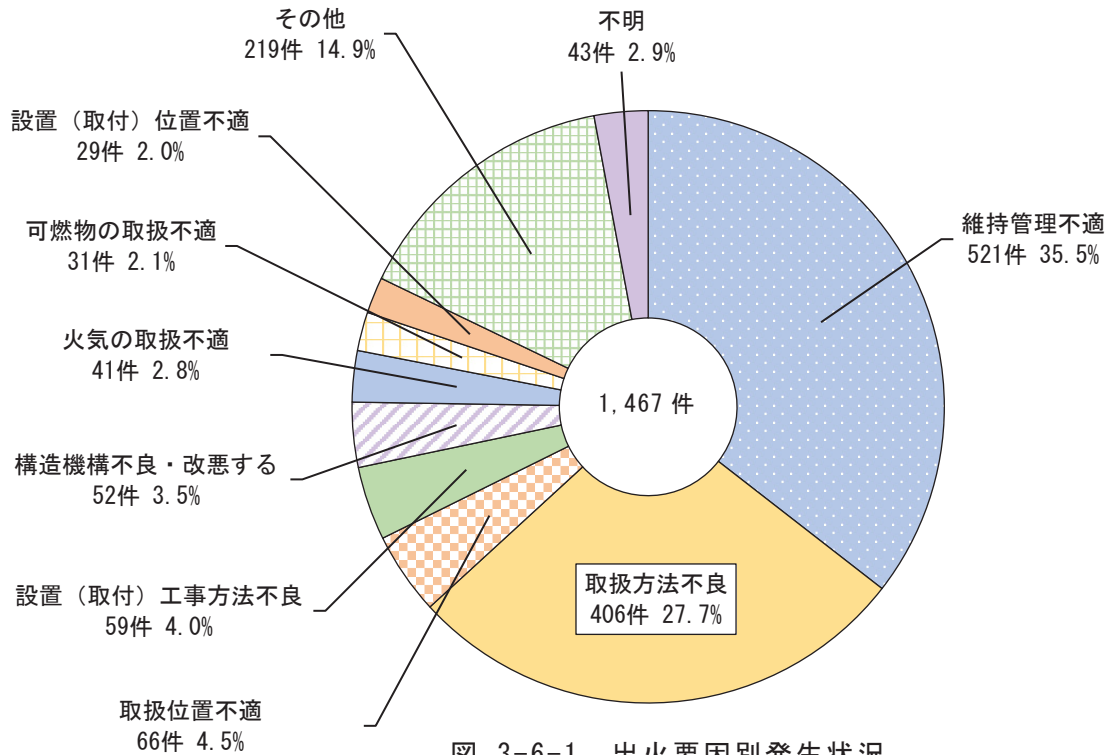


図 3-6-1 出火要因別発生状況

○ 出火要因別発生状況を見ると、「維持管理不適」が 521 件と最も多く、次いで「取扱方法不良」が 406 件で、この 2 項目で 6 割以上を占める。

(5) その他の特筆すべき火災状況

ア 電気ストーブからの火災

令和 4 年の「電気ストーブからの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-2 です。

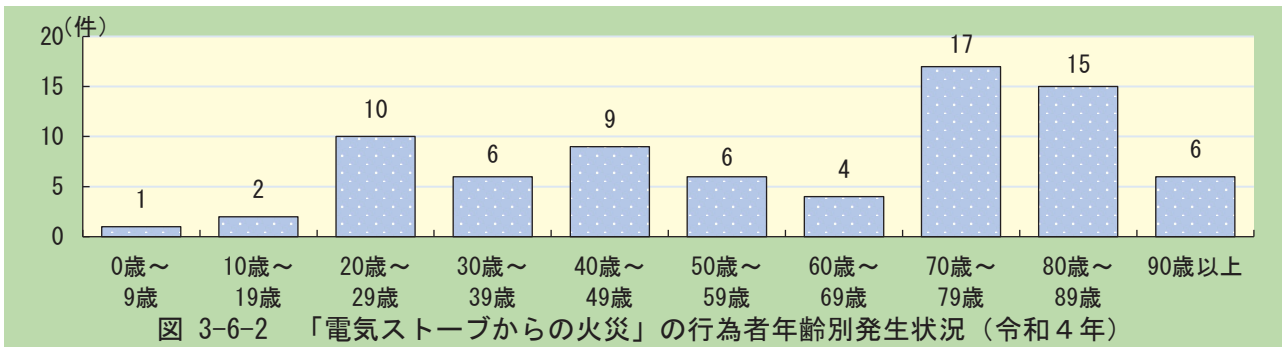


図 3-6-2 「電気ストーブからの火災」の行為者年齢別発生状況 (令和 4 年)

注 1 「電気ストーブからの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ及び温風機の 4 項目を合わせたものをいいます。

2 行為者年齢が不明の 13 人を除いています。

○ 電気ストーブからの火災の行為者年齢別発生状況を見ると、70 歳～79 歳が 17 人(22.4%)で最多。

イ リチウムイオン電池関連火災の発生状況

リチウムイオン電池関連火災の状況をみたものが表 3-6-5 です。

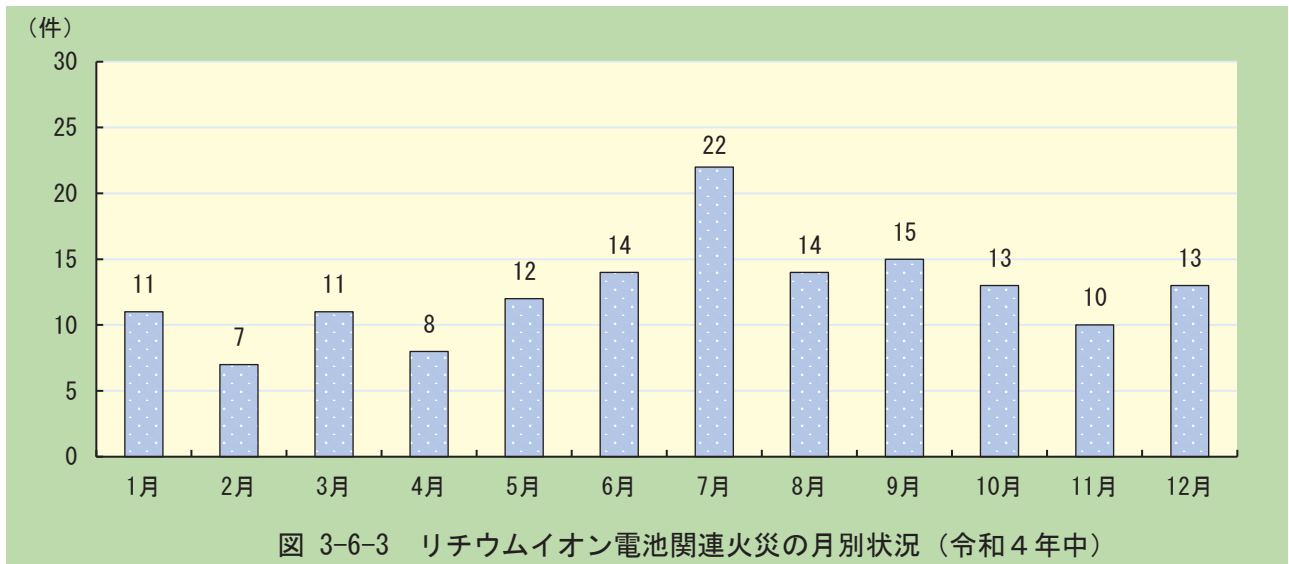
(7) 火災状況

最近 10 年間のリチウムイオン電池関連火災状況をみたものが表 3-6-5、リチウムイオン電池関連火災の月別状況（令和 4 年中）をみたものが図 3-6-3 です。

表 3-6-5 リチウムイオン電池関連火災状況（最近 10 年間）

年 別	火災の件数							損害状況				
	合計	建物					車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
25 年	12	12	-	1	2	9	-	-	70	7	-	6
26 年	19	18	-	-	3	15	-	1	11	6	-	6
27 年	26	21	-	-	3	18	3	1	2	53	-	3
28 年	55	48	-	-	6	42	2	2	77	40	-	22
29 年	56	47	-	-	5	42	7	5	32	41	-	4
30 年	82	69	-	1	4	64	6	7	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	5	400	257	-	12
2 年	104	93	-	2	11	80	5	6	200	195	-	22
3 年	141	124	5	5	16	98	6	11	860	289	-	30
4 年	150	124	4	-	17	103	10	16	513	109	1	42

- 注 1 リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池等を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く。）から出火した火災をいう。
 2 リチウムイオン電池関連火災には、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災及びごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除く。



- 令和 4 年中のリチウムイオン電池火災の件数は 150 件で、最近 10 年間で最多。
- 令和 4 年中月別の火災状況では、6 月から 9 月にかけて 65 件（43.3%）発生。

(イ) 出火時の状況別の火災状況

令和4年中の出火要因別火災状況をみたものが表3-6-6、製品の入手時期及びPSEマークの有無をみたものが表3-6-7、出火前の使用状況をみたものがそれぞれ表3-6-8、表3-6-9です。

表3-6-6 出火要因別火災状況（令和4年中）

出火要因	合計	モバイル	携帯	掃除	電動	電動アシスト	ポータブル	ワイヤレス	ノート	L	タ	電気	ジ	釣り	電子	そ	不
		バッテリー	電話機	機	工具	付自転車	電源	イヤホン	パソコン	E	ブ	シ	ュー	竿用	決済	の	明
合計	150(20)	35	16(2)	13(9)	12(8)	12	7	6	6	5	3	2	2	2	2	19(1)	8
分解等	19(1)	3	7(1)	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	2	2
製品の欠陥 (リコール含む)	17(1)	-	1	2(1)	-	7	2	2	-	1	-	-	-	-	-	2	-
衝撃等	12	1	4	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	3
充電方法誤り	8	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-
その他	7(1)	1	-	1(1)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	2	-
特定できない	87(17)	30	4(1)	9(7)	11(8)	4	4	4	2	3	1	-	2	1	1	8(1)	3

注1 製品のその他の内訳は、ヘアアイロン、電動ガンバッテリー、ラジコンバッテリー、送風機、スマートウォッチ、電動エアポンプ、電動ゴーカート、電動モップ、バランススクータ、高圧洗浄機、ルータ、防犯カメラ用モニタ、加熱式たばこ、美顔器、バイク用バッテリー、自動車用バッテリー、電動キックボード、オーディオプレーヤ、ワイヤレスカードリーダー（各1件）。

2 () 内数字は、非純正バッテリーから出火した件数を内数で示しています。

表3-6-7 出火要因別商品の入手時期及びPSEマークの有無（令和4年中）

出火要因	合計	製品の入手時期									PSEマークの有無		
		1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	6年未満	6年以上	不明	あり	なし	不明	
合計	150	24	19	15	11	9	11	6	55	30	13	107	
分解等	19	1	1	-	1	-	3	1	12	2	-	17	
製品の欠陥 (リコール含む)	17	2	1	5	1	2	4	-	2	4	3	10	
衝撃等	12	1	2	1	-	-	-	-	8	1	2	9	
充電方法誤り	8	3	1	-	1	-	-	-	3	2	-	6	
その他	7	-	-	1	1	-	1	1	3	2	-	5	
特定できない	87	17	14	8	7	7	3	4	27	19	8	60	

表 3-6-8 出火要因別出火前の製品異常および出火時の充電状況（令和4年中）

出火要因	合計	出火前の製品異常						出火時の充電状況				
		特になし	充電できない	ふくらみ	発熱	その他	不明	充電中	非充電中	使用中	その他	不明
合計	150	90	14	6	2	11	27	72	57	8	2	11
分解等	19	8	1	3	-	3	4	-	18	-	-	1
製品の欠陥 (リコール含む)	17	11	2	-	-	1	3	10	6	1	-	-
衝撃等	12	5	-	-	-	1	6	-	7	-	2	3
充電方法誤り	8	6	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
その他	7	3	1	1	-	1	1	4	3	-	-	-
特定できない	87	57	10	2	2	3	13	50	23	7	0	7

表 3-6-9 出火要因別出火直前の使用状況（令和4年中）

出火要因	合計	出火直前の使用状況						
		初めて使用	1週間以内	3か月以内	1週間以内	半年以内	1年以上	不明
合計	150	4	86	13	3	1	8	35
分解等	19	-	10	-	-	-	2	7
製品の欠陥 (リコール含む)	17	1	15	-	-	-	-	1
衝撃等	12	-	4	-	-	-	1	7
充電方法誤り	8	-	4	2	-	-	-	2
その他	7	-	4	1	-	-	-	2
特定できない	87	3	49	10	3	1	5	16

- 出火要因別火災状況の出火要因をみるとモバイルバッテリーが 35 件（23.3%）で最多。
- 製品の入手時期をみると、「1年未満」が 24 件（16.0%）で最多。
- 出火前の製品異常をみると、「特になし」が 90 件（60%）で最多。
- 使用状況をみると、「1週間以内」が 86 件（57.3%）で最多。

ウ トラッキング

最近5年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表3-6-10です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイトが生じて火災に至ります。

表3-6-10 年別発生状況（最近5年間）

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 (電気火災に占める割合%)		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数 (トラッキング火災に占める割合%)	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)
30年	1,205	113	(9.4)	34	(30.1)
元年	1,283	108	(8.4)	30	(27.8)
2年	1,163	95	(8.2)	21	(22.1)
3年	1,399	122	(8.7)	39	(32.0)
4年	1,467	127	(8.7)	36	(28.3)

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器（発火源が配線器具の差込みプラグを除く）のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

- トラッキング現象による火災は、127件（前年比5件増加）発生し、電気設備機器火災の1割近く占める。
- トラッキング火災件数のうち、差込みプラグ差し刃間で発生した火災件数は36件（28.3%）発生。

7 ガス設備機器

- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は 94.2% を占める。
- 全火災に対する割合が、令和 4 年では 13.5% で前年と比べて 0.3 ポイント減少。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-7-1 です。

表 3-7-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	火ガス設備機器数	全火災に対する割合 (%)	火災の種類							損害状況					
				建物					車	船	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
25 年	5,190	631	12.2	620	11	7	93	509	-	-	11	1,719	737	293,474	7	231
26 年	4,804	623	13.0	611	8	9	76	518	-	-	12	2,309	1,322	466,355	5	224
27 年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28 年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29 年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	-	11	2,119	824	719,562	7	194
30 年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	-	-	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	-	1	12	1,403	830	326,554	3	202
2 年	3,693	571	15.5	560	2	8	69	481	-	-	11	952	673	270,102	5	218
3 年	3,935	542	13.8	528	2	7	46	473	1	-	13	835	553	218,162	5	163
4 年	3,952	535	13.5	524	4	4	53	463	-	1	10	1,051	469	242,642	5	198

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和 4 年中の火災件数は 535 件で前年と比べて 7 件減少し、平成 28 年以降 500 件台で推移し、最近 10 年では平成 30 年に次いで少ない。
- 建物火災の焼損程度をみると、令和 4 年中の部分焼以上の延焼火災は 61 件で前年より 6 件増加。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過をみたものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源		合計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	引火する	接炎する	過熱する	考え違いにより使用を誤る	誤ってスイッチが入る(入れる)	火のついた油等が吸い込まれる	伝導過熱する	放射を受けて発火する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	火の粉が散る・飛び火する	可燃物が落下する	その他	不明	
合計		535	213	65	56	51	50	22	16	12	10	7	6	5	4	13	5	
厨房 関連 連	小計	504	213	62	45	45	50	22	16	12	10	7	6	3	2	7	4	
	ガステーブル	247	78	45	27	24	26	19	14	-	2	1	6	-	1	3	1	
	大型ガスコンロ	96	71	1	5	3	6	-	-	-	4	2	-	-	-	1	3	
	ガスコンロ	40	22	4	4	5	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	大型レンジ	28	19	1	-	3	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	簡易型ガスコンロ	28	12	2	4	5	3	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	
	ガスレンジ	16	6	2	2	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無煙ガスロースタ	14	-	-	-	-	1	-	-	12	-	-	-	-	-	-	1	-
	フライヤ	8	4	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
	給湯器	7	-	1	2	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
	ガス炊飯器	5	-	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	ガスロースタ(無煙を除く)	4	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	コーヒー焙煎機	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	ガスハース グリラー	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
その他の厨房関連	6	1	1	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
家事・ 季節 関連	小計	17	-	2	9	2	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	
	ガスファンヒータ	7	-	-	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスストーブ	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
	風呂がま	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	ガス衣類乾燥機	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
その他の家事・季節 関連	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工業 関連 連	小計	14	-	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	1	
	ガス切断器	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	
	ガスバーナ	4	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	ガスハンドトーチ	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	工業用炉	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ガス溶接器	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		

- 厨房関連設備機器の火災は 504 件発生し、ガス設備機器の 94.2%を占める。
- 厨房関連設備機器の経過で最も多いのは、「放置する・忘れる」の 213 件 (39.8%) で 4 割近くを占める。
- 家事・季節関連機器の火災は 17 件 (3.2%) 発生し、ガスファンヒータが 7 件 (41.2%)。
- 工業関連設備機器の火災は 14 件 (2.6%) 発生し、そのうち 5 件 (35.7%) がガス切断器に起因して発生。

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

また、主な出火原因でガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況をみたものが表 3-7-4 です。

表 3-7-3 ガス設備機器の出火要因

発火源		合計	火気の取扱不適	取扱方法不良	維持管理不適	可燃物の取扱不適	取扱位置不適	設置位置（取付）不適	工事方法（取付）不良	その他	不明
合計		535	193	145	79	66	24	7	6	10	5
厨房 関連	小計	504	189	139	71	61	22	6	3	9	4
	ガステーブル	247	72	85	23	42	12	3	1	8	1
	大型ガスコンロ	96	59	17	6	6	3	1	1	-	3
	ガスコンロ	40	19	10	1	6	3	1	-	-	-
	大型レンジ	28	17	5	4	1	-	-	1	-	-
	簡易型ガスコンロ	28	12	11	2	1	2	-	-	-	-
	ガスレンジ	16	4	6	3	2	1	-	-	-	-
	無煙ガスロースタ	14	1	-	13	-	-	-	-	-	-
	フライヤ	8	4	1	3	-	-	-	-	-	-
	給湯器	7	-	1	4	1	-	1	-	-	-
	ガス炊飯器	5	-	1	2	2	-	-	-	-	-
	ガスロースタ（無煙を除く）	4	-	-	3	-	1	-	-	-	-
	コーヒー焙煎機	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-
	ガスハースグリラー	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
その他の厨房関連	6	1	1	3	-	-	-	-	1	-	
家事・季節 関連	小計	17	1	2	6	5	1	1	1	-	-
	ガスファンヒータ	7	1	-	4	1	1	-	-	-	-
	ガスストーブ	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-
	風呂がま	3	-	-	-	2	-	1	-	-	-
	ガス衣類乾燥機	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-
	その他の家事・季節関連	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-
工業 関連	小計	14	3	4	2	-	1	-	2	1	1
	ガス切断器	5	2	1	-	-	1	-	1	-	-
	ガスバーナ	4	1	1	2	-	-	-	-	-	-
	ガスハンドトーチ	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-
	工業用炉	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	ガス溶接器	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-

表 3-7-4 ガステーブル等における部位別着火物及び経過の状況

部 位 別	合 計	放 置 する・忘 れ る	可 燃 物 が 接 触 する	引 火 する	過 熱 する	接 炎 する	使 考 え 違 い に よ り 用 を 誤 る	入 る (入 れ る)	誤 っ て ス イ ッ チ が	あ 可 燃 物 が 沸 騰 する・ ぶ れ 出 る	そ の 他 ・ 不 明
合 計	331	118	53	37	35	34	22	16	6	10	
こ ん ろ 部	小 計	286	98	53	35	19	32	22	11	6	10
	動 植 物 油	76	55	-	-	15	-	-	-	6	-
	着 衣	34	-	33	-	-	-	-	1	-	-
	砂 糖 ・ 食 料	24	22	-	-	2	-	-	-	-	-
	台 所 用 品	19	5	6	-	-	1	5	2	-	-
	L P G (エ ア ズ ール 用)	18	-	-	18	-	-	-	-	-	-
	繊 維 製 品 、 し ゅ ろ ほう き	17	6	4	-	-	6	-	-	-	1
	電 気 製 品	14	-	-	-	-	-	10	2	-	2
	そ の 他 の 紙 ・ 紙 製 品	13	-	3	-	-	7	-	3	-	-
	そ の 他 の 合 成 樹 脂 及 び 成 型 品	13	3	1	-	-	2	6	1	-	-
	都 市 ガ ス	9	-	-	8	-	-	1	-	-	-
	そ の 他 ・ 不 明	49	7	6	9	2	16	-	2	-	7
グ リ ル 部	小 計	45	20	-	2	16	2	-	5	-	-
	油 か す	34	14	-	-	15	2	-	3	-	-
	砂 糖 ・ 食 料	6	5	-	-	1	-	-	-	-	-
	L P G (カ セ ッ ト 用)	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	動 植 物 油	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	そ の 他 の 合 成 樹 脂 及 び 成 型 品	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	台 所 用 品	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-

- 出火要因をみると、「火気の取扱不適」が193件で最も多く、全体の36.1%を占め、次いで「取扱方法不良」が145件(27.1%)、「維持管理不適」が79件(14.8%)
- ガステーブル等における火災は331件発生しており、ガス設備機器に起因する火災の61.9%を占める。
- ガステーブル等における部位別は「こんろ部」が286件で、そのうち、着火物となったのは「動植物油」が76件(26.6%)、次いで「着衣」が34件(11.9%)発生。
- ガステーブル等における部位別の「グリル部」をみると、45件で、そのうち着火物となったのは「油かす」が34件で75.6%を占める。

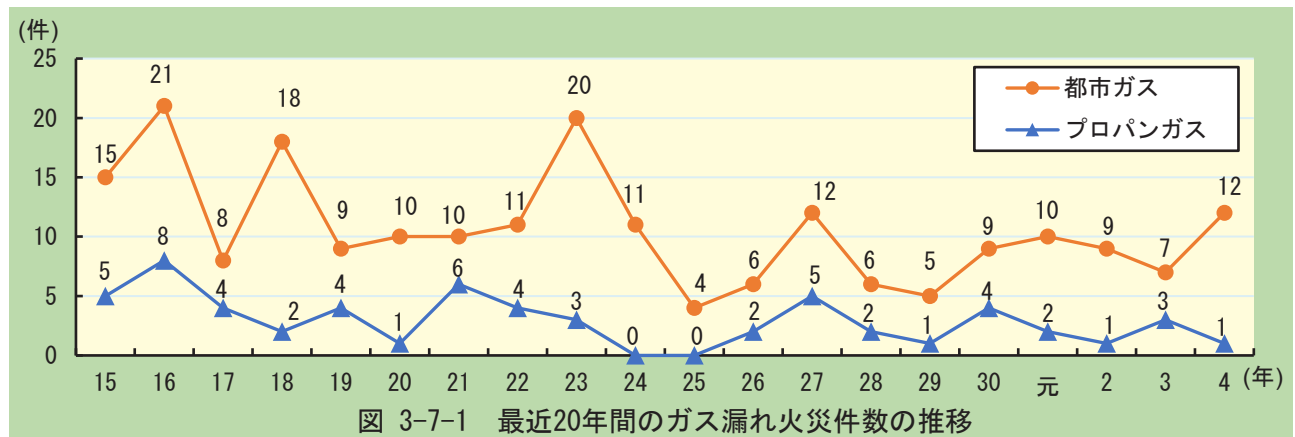
(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

最近10年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表3-7-5、最近20年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図3-7-1です。

表3-7-5 ガス漏れ火災年別状況

ガス種別	年別	合計	火災の種類					別 の 他	損害状況				
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼ や		焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者
都市ガス	25年	4	4	-	-	-	4	-	-	-	4	-	1
	26年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	10	-	-
	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	8	-	1
	29年	5	5	-	-	-	5	-	-	-	29	-	-
	30年	9	8	-	-	-	8	1	-	-	73	-	1
	元年	10	10	-	-	1	9	-	30	25	6,543	-	4
	2年	9	9	-	-	1	8	-	2	1	424	-	2
	3年	7	6	-	-	-	6	1	-	-	195	-	2
	4年	12	11	-	-	2	9	1	40	5	16,696	1	2
プロパンガス	25年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	5	-	-
	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	5
	29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	30年	4	-	-	-	-	-	4	-	-	11	-	1
	元年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	2,387	-	-
	2年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	3年	3	2	-	-	-	2	1	-	-	6,250	-	2
	4年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-



イ 要因別の状況

令和4年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表3-7-6です。

表3-7-6 ガス漏れ要因の状況

ガス 種 別	発 火 源	ガス 漏 れ 器 具	合 計	ゴ ム 管 に 高 温 物	配 管 の 接 続 不 良	ゴ ム 管 の 接 続 不 良	高 圧 導 管 老 化 き 裂	屋 内 配 管 の 腐 食	差 し 込 み 不 良	不 明 ・ そ の 他
合		計	13	3	2	2	1	1	1	3
都 市 ガ ス	小	計	12	3	2	2	1	1	-	3
	ガステーブル	本体	5	1	1	1	-	1	-	1
		その他								
	ガスこんろ	本体	2	2	-	-	-	-	-	-
		ゴム管								
	給湯器	本体	2	-	-	-	-	-	-	-
		ガスコック								
	大型ガスこんろ	本体	1	-	-	-	1	-	-	-
瞬間湯沸器	本体	1	-	1	-	-	-	-	-	
ガスファンヒータ	本体	1	-	-	1	-	-	-	-	
プロパン	大型ガスこんろ	本体	1	-	-	-	-	-	1	-

- ガス漏れ火災は13件で、前年（10件）より3件増加。
- 都市ガス及びプロパンガスのガス漏れ火災は増減を繰り返し、10件前後を推移。

8 石油設備機器

- 石油設備機器による火災件数は 29 件発生し、前年と比べ 2 件減少。
- 焼損床面積は 177㎡と、過去 10 年間で最も少ない。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23 油を燃料とする道具装置」
 ②経過分類コード「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-8-1 です。

表 3-8-1 年別火災状況（最近 10 年間）

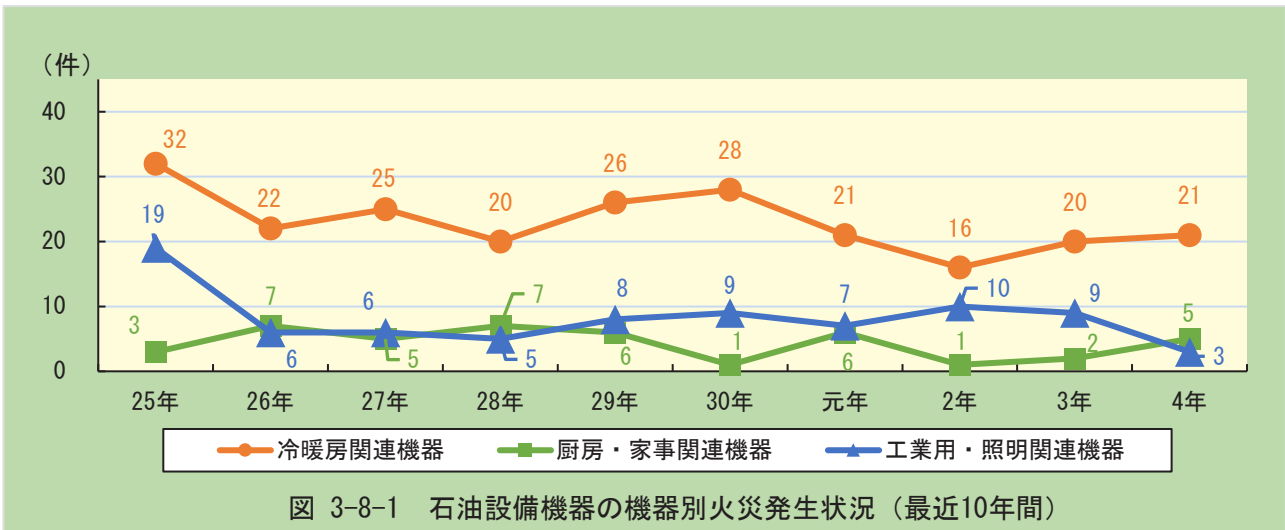
年別	全火災件数	石油設備機器件数	全火災件数に対する割合 (%)	火災種別					損害状況							
				建物					航空機	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面积 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
25 年	5,190	54	1.0	46	10	1	10	25	1	-	7	1,051	264	106,019	2	30
26 年	4,804	35	0.7	29	2	1	6	20	-	-	6	385	46	81,791	1	25
27 年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28 年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	1	-	3	338	51	961,883	-	36
29 年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	4	864	282	92,131	-	33
30 年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	-	-	5	660	119	112,714	1	21
元年	4,085	34	0.8	31	4	1	5	21	-	-	3	729	144	110,040	3	13
2 年	3,693	27	0.7	18	1	1	4	12	-	-	9	211	133	46,567	-	21
3 年	3,935	31	0.8	23	5	2	3	13	-	-	8	737	496	123,840	4	12
4 年	3,952	29	0.7	25	1	4	2	18	-	-	4	177	119	97,642	-	13

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 火災種別をみると、建物火災が 25 件（86.2%）で 8 割以上を占める。
- 延焼拡大率（建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合）は 28.0%を占め、前年と比べて 15.5 ポイント減少。

イ 機器別火災状況

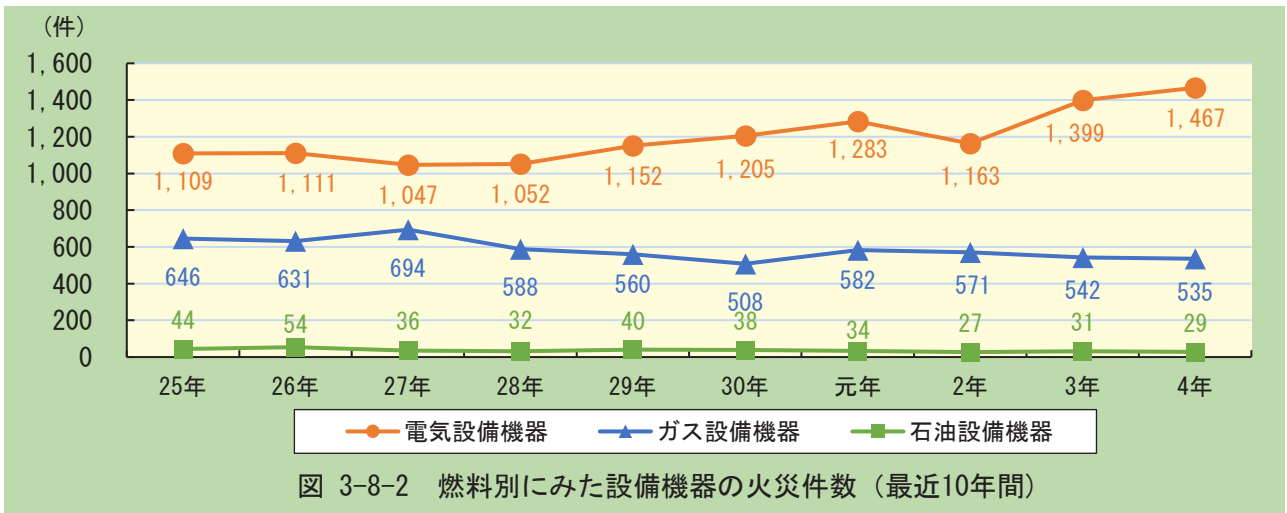
石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

- 石油設備機器の機器別火災発生状況をみると、冷暖房関連機器が 21 件（72.4%）を占める。また、工業用・照明関連機器が 3 件（10.3%）で最近 10 年間で最少。
- 燃料別にみた設備機器の火災件数をみると、石油設備機器は 2 件減少、電気設備機器は 68 件増加、ガス設備機器は 7 件減少。

(2) 主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図 3-8-3 です。

表 3-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発火源	合計	引火する	可燃物が接触する	使用中給油する	使用を誤る	考え違いにより	可燃物が落下する	可燃物を置く	火源が落下する	火源が接触する	火源が破損する	機械が故障を起こす	放置する・忘れる	吹き返す	不明
		計													
合計	29	8	5	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
関連機器	小計	21	7	4	2	3	1	1	-	1	-	-	-	1	1
	石油ストーブ	15	3	4	2	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-
	石油ファンヒーター	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ジェットヒーター	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
関連機器	小計	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-
	アスファルト溶解炉	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	発電機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ボイラー	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
関連機器	小計	5	1	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	アルコールこんろ	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	アルコールランプ	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油こんろ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

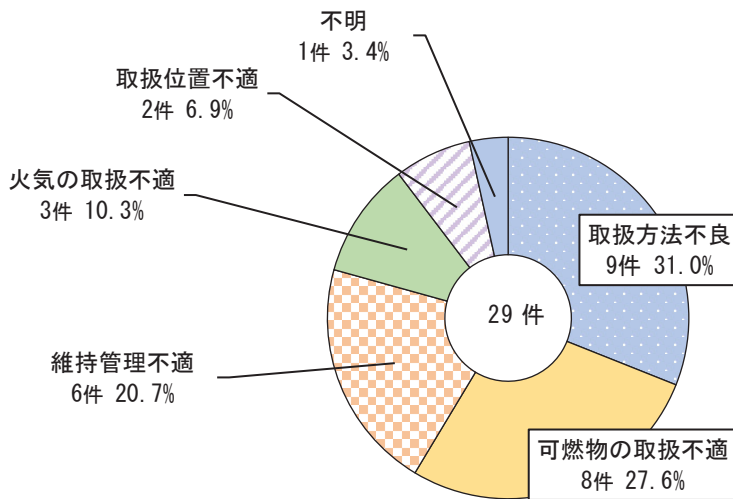


図 3-8-3 出火要因別火災状況

- 石油ストーブの火災は 15 件 (51.7%) で前年 (12 件) より 3 件増加しており、石油設備機器の火災の約 5 割以上を占める。
- 出火要因別でみると、「取扱方法不良」が 9 件 (31.0%) 発生、次いで「可燃物の取扱不適」が 8 件 (27.6%) 発生し、この 2 項目で石油設備機器の 5 割以上を占める。

9 その他の出火原因

- 花火による火災は3件で、すべて玩具用花火で発生。
- 前年と比較すると、再燃のみが4件増加。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表 3-9-1 です。

表 3-9-1 その他の出火原因の火災状況

出火原因	火災の種類別								損害状況				
	合計	建物					林野	その他	焼損床面積 (m^2)	焼損表面積 (m^2)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
花火	3	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	8
雷	3	1	-	-	-	1	-	2	-	-	42	-	-
再燃	13	9	-	-	3	6	-	4	-	185	12,451	-	3
収れん	6	5	-	-	1	4	-	1	-	2	154	-	-

(1) 花火

抽出条件：①発火源分類コード 「71201 煙火」、「71202 花火」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火及び玩具花火の両方の火災をいいます。

- 火災件数は3件で、前年（7件）と比べて4件減少。
- 負傷者数は8人で、前年（3人）と比べて5人増加。

(2) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841 落雷する」

- 火災件数は3件で、前年（8件）と比べて5件減少。
- 直接雷*によるものが1件（33.3%）、間接雷*によるもの2件（66.6%）発生。
- 月別発生状況をみると、8月に3件発生。

(3) 再燃

抽出条件：経過分類コード 「321 消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品		
		寝具類	消したはずの繊維・製品	消したはずの紙・製品
合計	13	6	5	2
バケツ、洗面器等の水をかけた	4	2	1	1
直接水道の水をかけた	3	2	1	-
コップ・湯のみ等の水をかけた	2	-	2	-
たたき消した	1	-	-	1
ふろの水をかけた	1	1	-	-
不明	2	1	1	-

- 火災件数は13件で、前年（9件）と比べて4件増加。
- 再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが4件（30.8%）と最も多く発生。
- 再燃物品は、寝具類が6件（46.2%）で4割以上を占める。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが1点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が1点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

- 火災件数は6件で、前年（8件）と比べて2件減少。
- 発火源をみると、凹面鏡が4件、凸レンズが2件となっている。